

II 地域・職域連携の推進による生活習慣病予防等に関する研究 地域・職域連携推進事業活性化ツールモデル事業の初期集合研修の展開と評価

研究代表者：荒木田美香子（国際医療福祉大学）
 研究分担者：前田秀雄（東京都医学総合研究所） 巽あさみ（浜松医科大学）
 柴田英治（愛知医科大学） 横山淳一（名古屋工業大学）
 鳥本靖子、松田有子（国際医療福祉大学）
 竹中香名子（国際医療福祉大学）
 研究協力者：井上邦雄、榊原寿治（静岡産業保健総合支援センター）
 春木匠（健康保険組合連合会）
 町田恵子（全国健康保険協会）
 津島志津子（神奈川県保健医療部健康増進課）
 幡野剛史、江副淳一郎（凸版印刷株式会社）

研究要旨

目的：本研究は、「地域・職域連携推進事業活性化ツール」を活用した自治体でのモデル事業の初期集合研修をモデル事業として実施したので、その評価を行うことを目的とした。

方法：初期集合研修への参加者の感想、当日のワークで活用した資料、実施者側の感想などをもとに、参加者が「活性化ツールを試用し、活動のヒントを得る」「各保健所の地域・職域連携事業の取り組みについて情報共有し、学びあう」「自組織協議会の取り組みを振り返ることで、今後へのヒントを得る」を目標達成することについて検討した。研究デザインはアクションリサーチとした。

結果と考察：参加者は8自治体9人であった。プロセス評価表の記載から、各自治体は働く世代の健康課題は明確にはなっていたが、中期的計画の立案、数値目標を立てた評価については実施できていないと回答するところが半数以上であった。地域・職域連携活性化ツールの使い方は全員が理解し、興味をもったと回答した。また、他協議会の活動は非常に参考になったという意見が多数であった。

結論：今回の初期集合研修は、モデル事業参加者は活性化ツールの活用方法の理解に役立つとともに、自協議会の進め方を振り返る機会を提供する内容となっていた。しかし、活性化ツールが実際に事業のヒントとなり、地域・職域連携推進事業を活性化するために役立つものであるかどうかは、今後の個別指導の中で、確認・検討していく必要がある。

A. 研究目的

本研究班では、「地域・職域連携推進事業活性化ツール」(以下、活性化ツール)としてデータ活用から課題の明確化を行う「課題明確化ツール」と明確にした課題から具体的な事業の展開や評価案の設定をサポートする「連携事業開発ツール」を開発し

た。それを実施に自治体の地域・職域連携推進協議会の事務局に活用していただき(以下、モデル事業)、意見を聴取し、活性化ツールの改善を図ることとしている。モデル事業においては、まず、2018年2月に初期集合研修を行い、活性化ツールをどのように活用できるのかを説明を行った。初

期集合研修の後は、研究分担者・協力者による3回程度の個別アドバイス、2019年秋に後期の集合研修を行うことにより、モデル事業参加事務局が感じている課題を明確にして、解決に向けた活動を行う予定である。各モデル事業のプロセスの分析結果をさらに2019年度に作成する活性化ツールとハンドブックの公開版に反映する予定である。

そこで、本研究は、「地域・職域連携推進事業活性化ツール」を活用したモデル事業を実施したので、その内容と参加者などの意見を取りまとめ、初期集合研修の評価を行うことを目的とした。

B. 研究方法

研究デザインはアクションリサーチとした。

2018年に全国二次医療圏域の保健所にモデル事業への参加希望募集案内を送付し、8保健所の参加希望があった。初期集合研修は2019年2月に2回設定し、各保健所が参加可能な日程を選択した。

初期集合研修の参加保健所担当者の目標を下記のように設定した。

1. 活性化ツールを試用し、活動のヒントを得る
2. 各保健所の地域・職域連携事業の取り組みについて情報共有し、学びあう
3. 自組織協議会の取り組みを振り返ることで、今後の活動へのヒントを得る

目標設定の理由としては、今回のモデル事業は活性化ツールを活用していただき、改善点を抽出するために実施することであったため目標1を設定した。今回のモデル事業の参加保健所は、既に連携協議会を開催し、連携事業を展開しているところで

あったため、各活動が参考になるところがあると考えて、目標2を設定した。さらに、ハンドブック Ver.1 及び活性化ツールにプロセス評価項目を掲載しているが、それらの項目が妥当であり、考えやすい項目になっているかを検討するため目標3を設定した。

モデル事業における介入内容を図1に示した。初期集合研修はその最初の介入であった。

初期集合研修の具体的な内容は、図2及び表1に示した。各保健所が行っている地域・職域連携推進協議会の事業内容の紹介、SWOT分析及びプロセス評価の実施、活性化ツールの説明と試用（事業を選択し、評価項目を作成する）、ブレイン・ライティングを参考にした話し合い（グループワーク）実施の体験であった。

初期集合研修の評価については、初期集合研修の終了時点での参加者の感想を聞いた。具体的な質問項目は、他の協議会の活動は参考になったか、自組織のプロセスチェックは参考になったか、SWOT分析は理解できたか、SWOT分析は参考になったか、活性化ツールに興味を持てたか、活性化ツールの使い方は理解できたか、ブレイン・ライティングの方法を活用した話し合いは参考になったかの7項目について、それぞれ「まったく参考とならなかった」「あまり参考とならなかった」「どちらともいえない」「ある程度は参考になった」「とても参考になった」の5段階で尋ねた。さらに、自由記載で活性化ツールに関する意見、その他の意見を聞いた。

本研究は、国際医療福祉大学の倫理委員会の承認を得て実施した（承認番号：18-Io-96）。

C. 結果

初期集合研修を2回実施し、それぞれ4保健所各1名ずつの参加者であった。参加者が2名いた保健所があったため、8保健所9名の参加であった。

SWOT分析の説明資料は図3に示した。研究会では説明を聞いたのち、自組織の地域・職域連携協議会を想定して、SWOT分析を行い、各自発表を行った。

プロセス評価（図4）への回答状況は図6に示した。各保健所とも健康課題の明確化はできていた。しかしながら、半数の保健所でできていないという回答があった項目は、中期的な目標の設定、取り組み目標を健康増進計画と関連させている、事業ごとの実施目標値の設定ができていない、目標に応じた参加機関が適切である、協議会に参加する意義、メリット、役割を関係機関に説明している、協議会の推進に当たって阻害要因を把握している、キーパーソンを把握している、評価結果を参加機関と共有している、中期的な評価をしている、関係機関が意義・役割を認識して事業に参加していた、対象者や対象事業所の反応や満足感が高かった、事務局の人員が確保できている・実施事業の予算が確保できている、であった。

ブレイン・ライティングを参考にした話し合いの資料（図6）と、そのグループワーク（テーマ：労働関係機関に積極的に参加してもらい、中高年の労働者に高血圧が多いという健康課題への対策をしたいが、労働関係機関をやる気にさせるためにはどのような方法があるか）で各グループで出された意見を表2-1～2-4に示した。

初期集合研修に対する参加者の各項目の回答を図7に示した。5段階で聞いたが、

「まったく参考にならなかった」「あまり参考にならなかった」という意見は見られなかった。活性化ツールについては、すべての人がツールに興味を持てたと回答しており、ツールの使い方も66%がとても理解できたと回答していた。

自由記載からは活性化ツールを実際に使ってみて検討したい、評価についてツールからヒントを得たなどの意見があった。また、初期集合研修で行った内容が地域・職域連携推進協議会の展開に参考になるとの意見が見られた（表3）。

開催者側（研究分担者・研究協力者）の初期集合研修に対する意見は良かった点と改善点に分けて自由記述で確認した（表4・5）。意見としては、保健所担当者間の連携事業の紹介が情報共有の場となったこと、SWOT分析やブレイン・ライティング等のワークが効果的であったことが良い点として挙げられた。一方、改善点として、今回のモデル事業参加自治体は自ら参加してくれた地域であり、地域・職域連携に興味を持っていて、実際に活動している地域であり、活性化ツールを必要としないレベルではないか、さらなる改善が望めないのではないかという意見や、研修内容が多く、時間が不足していたなどの意見があった。

D. 考察

初期集合研修の目的は「活性化ツールを試用し、活動のヒントを得る」「各保健所の地域・職域連携事業の取り組みについて情報共有し、学びあう」「自組織協議会の取り組みを振り返ることで、今後の活動へのヒントを得る」という3点であった。

「活性化ツールを試用し、活動のヒント

を得る」では、活性化ツールは活用に困難はなく、担当者に興味を持っていただけるツールとなっていたことが分かった。しかし、実際にデータや具体的な目標設定などは今後実施することになるため、引き続き個別指導を行う中で、意見を聴取していく必要がある。

「各保健所の地域・職域連携事業の取り組みについて情報共有し、学びあう」という点については、77.8%がとても参考になったと回答していたことから、ある程度目的は達成されたといえる。

「自組織協議会の取り組みを振り返ることで、今後の活動へのヒントを得る」については、プロセス評価表のチェックやSWOT分析が参考になったという意見があることから、振り返りを行うツールになっていたことが分かった。しかし、組織やプロセスの評価というのは、一担当者のみではなく、事務局関係者で振り返り、話し合いを行うことが望ましいため、具体的には今後の個別指導の中で自組織の振り返りをどのように行い、活動に生かしているのかを検証していく必要がある。

E. まとめ

今回実施した初期集合研修を通して、モデル事業参加者の活性化ツールの活用方法の理解に役立つとともに、自協議会の進め方を振り返る機会を提供する機会となっていた。しかし、活性化ツールが実際に事業運営のヒントとなり、地域・職域連携推進事業を活性化するために役立つものであるかどうかは、今後の個別指導の中で、検証していく必要がある。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

なし

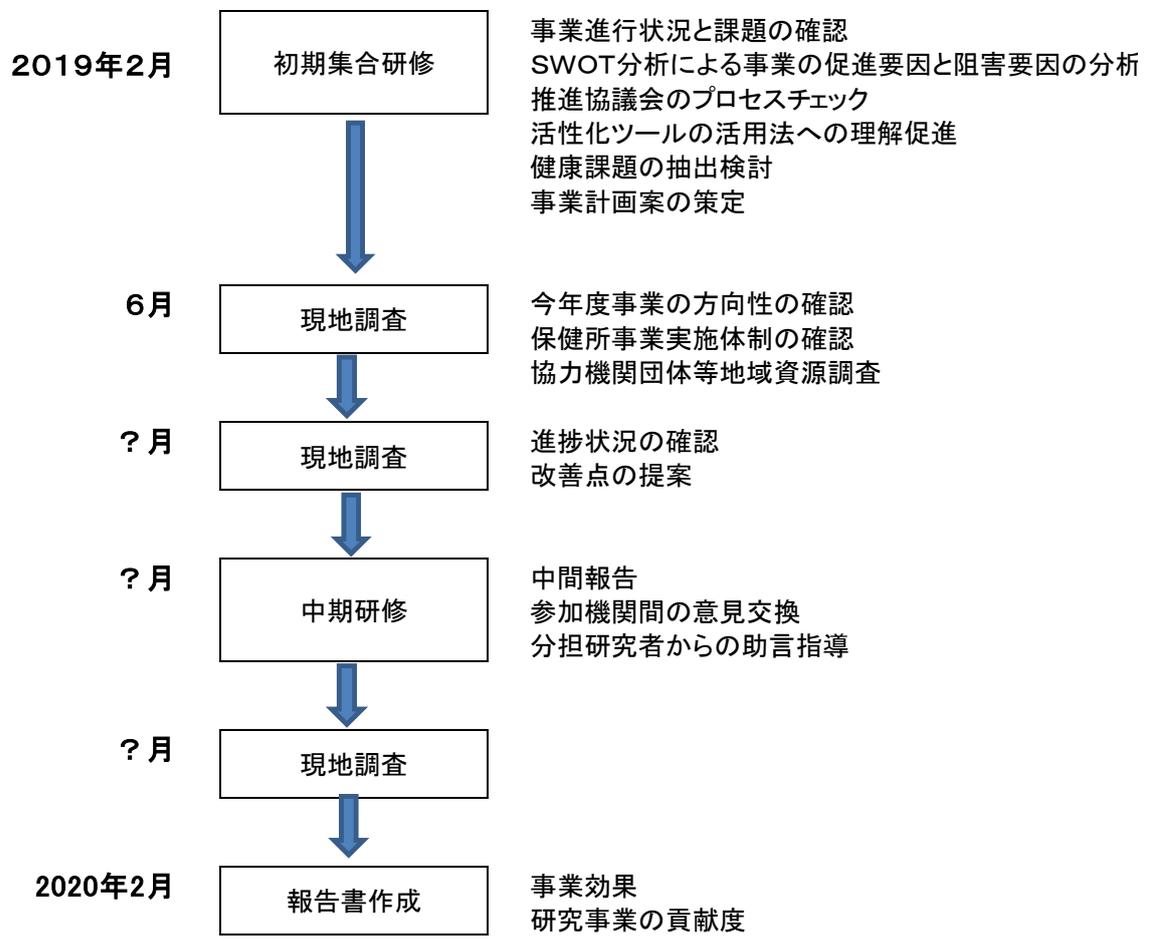


図1 モデル事業の介入内容の概要

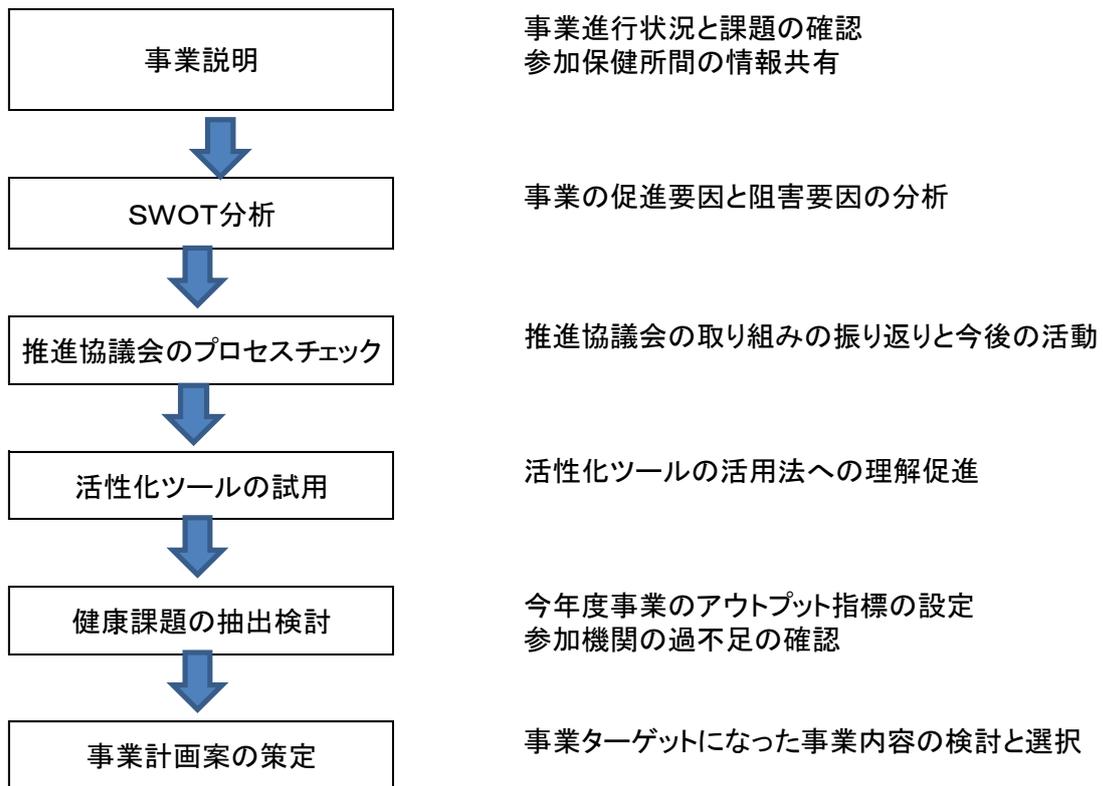


図2 初期集合研修の進行及び各事項の目的

表1 初期集合研修の流れ

時刻	時間	活動	備考
9:45	15	1. 研究の手続きなど 発表資料預かり：コピー	
10:00	10	2. 研究班側の自己紹介	
		3. 協力側の自己紹介	承諾書/同意書/
10:10 10:20	5	4. モデル事業の目的などの説明 本日の流れの説明	
	5	5. アイスブレイキング	
10:20- 11:20	60	6. 各協議会のこれまでの進行状況と現時点で 感じている課題の発表	各協議会 8分程度 事前に依頼 参加者からの質疑応答
11:20	25	7. 自組織のSWOT分析を行う 自組織の協議会で強みのポイントは何か？ウ ィークポイントや阻害要因は何か	レジュメ
	15	8. 各協議会がプロセスのチェック *チェック表に意見をもらう	複写シート（チェック表） 研究分担者も参加合
12:20	25	9. プロセスチェックの結果を参考に各自 SWOT分析を実施	A3 テンプレート
13:20 13:40	15	10. 参加者間で共有する	
13:40 14:40	40	12. 自地域の健康課題を2つ選択してもらう	ツールを使用して説明 パソコン（参加者事に準備）、プ ロジェクター1台
	20	13. 各自健康課題1つについて、評価項目設定 まで書き込む	・現時点の参加機関で過不足は ないか ・アウトプット評価指標は設定 できるか
14:45 15:15	30	15. ツールを活用して作成した計画の発表・疑 問などの発表	A3での印刷 プロジェクター
15:15 15:50	35	16. 労働機関側を巻き込むためにはどうした らよいか	参考：ブレイン・ライティング(付 箋+シート+レジュメ)
15:50	10	17. 今後の個別アドバイスについて	

図3 SWOT分析に関する資料

グループワークの目的

- 効果的な事業を計画立案するために、SWOT分析を用いて自組織を取り巻く現状を把握する
- さらに、各グループで実施したSWOT分析の結果を共有する

3

目次

1. SWOT分析とは
2. SWOT分析の実施手順
3. SWOT分析の実施例
4. SWOT分析をやってみよう

4

1. SWOT分析とは

- 組織のビジョンや戦略を企画立案する際に利用される、現状を把握、分析するためのフレームワーク
- 自組織の内部環境と外部環境を、プラス要因(好ましい側面)とマイナス要因(好ましくない側面)から整理する

5

SWOT分析表

	プラス要因	マイナス要因
内部環境	Strength 強み	Weakness 弱み
外部環境	Opportunity 機会	Threat 脅威

内部環境

	プラス要因	マイナス要因
内部環境	Strength 強み	Weakness 弱み

組織の「内部」にあるプラス要因・マイナス要因。
組織の持つ人材、資金、技術、IT環境、情報、拠点など自組織の強みと弱み
その組織内で改善が可能なこと

外部環境

	プラス要因	マイナス要因
組織を取り巻く諸環境。政治動向や規制、経済・景気、社会動向、 技術動向、業界環境や住民のニーズ、行政の役割の変化など その組織の努力だけで変えることが不可能なもの	Opportunity 機会	Threat 脅威

SWOT分析表

	プラス要因	マイナス要因
内部環境	Strength 強み	Weakness 弱み
外部環境	Opportunity 機会	Threat 脅威

内部環境と外部環境のクロス表に整理

		内部環境	
		強み	弱み
		プラス要因	マイナス要因
外部環境	機会 優先順位が高い	強み×機会	弱み×機会
	脅威 優先順位が低い	強み×脅威	弱み×脅威

戦略を考える: クロスSWOT分析表

		内部環境	
		強み	弱み
外部環境	機会	強み×機会 成長戦略	弱み×機会 改善戦略
	脅威	強み×脅威 回避戦略	弱み×脅威 撤退戦略

戦略を考える際のヒント

分析	戦略	戦略オプションを考えるための問い
強み×機会	成長戦略	強みを活かして機会を勝ち取るための方策は？
強み×脅威	回避戦略	強みを活かしつつ緩やかに縮小させるには？
弱み×機会	改善戦略	弱みを補強して機会をつかむための施策とは？
弱み×脅威	撤退戦略	弱みでもあるので経営資源を撤退させるには？

12

2. SWOT分析の実手順

1. 外部環境(取り巻く諸環境)の現状を記述
2. 内部環境(自組織内)の現状を記述
3. 外部環境と内部環境をプラスおよびマイナス要因で分類
4. SWOT表にまとめる
5. 全体を確認しながら、さらにアイデアがあれば表に直接追記
6. クロスSWOT表に整理
7. 戦略オプションを考える

13

「自組織」の範囲をどのように考えるか

コントロール(介入)可能な範囲

- ・ 保健所の課
- ・ 保健所の部
- ・ 保健所
- ・ 保健所との連携に積極的な組織
- ・ 地域職域連携推進協議会
- ・ 管轄医療圏(地域職域連携推進事業の範囲)

この範囲で考えることが重要！
「パートナー」の観点



14

外部環境(取り巻く諸環境)の視点

今後どのように外部環境が変化するか: PEST分析

- Politics (政治的要因)
 - 法律、法改正、条例、税制、政権交代など
- Economy (経済的要因)
 - 経済状況、経済成長など
- Society (社会)
 - 少子高齢化、流行、世論、宗教、教育など
- Technology (技術)
 - イノベーション、特許、インフラなど

+

健康環境要因

市場環境要因

- 住民ニーズ
- 行政が果たす役割

15

内部環境(自組織内)の視点

- 人材
- 設備
- 予算
- 技術
- IT環境
- 情報
- 拠点
- など

経営資源 × 強み(S)・弱み(W)

※「強み」と「弱み」の判断基準例:

- 「もうこれ以上、必要はない」→「強み」
- 「もっと必要」→「弱み」

他の組織との比較のみならず、
当該組織の目指すゴールとの比較

16

3. SWOT分析の実施例

自治体におけるSWOT分析事例^[1]

1. 公共図書館の事例
2. 水道事業の事例
3. 高齢者福祉の事例

[1] 大住 莊四郎 「自治体への戦略マネジメントモデルの適用—SWOT分析を中心に」
ESRI Discussion Paper Series No.157, 2006年2月

17

公共図書館 の事例		ニーズ・役割(外部環境 機会・脅威)	
		増加	減少
		<ul style="list-style-type: none"> ● 専門書・ビジネス支援情報へのニーズが増加 ● 子供が書籍に親しむ環境を作ってほしいというニーズが増加 	<ul style="list-style-type: none"> ● 大型書店・中古書店・ネット利用増加
強み	<ul style="list-style-type: none"> ● 図書館 ● ビジネス関連の資料が豊富 ● 児童書の蔵書が豊富 	<ul style="list-style-type: none"> ● ビジネス関連支援ニーズを豊富なビジネス情報の提供で対応 ● 子供の読書会を企画することで対応 	<ul style="list-style-type: none"> ● ベストセラー・コーナーは維持しつつも、新規の蔵書は最小限にとどめる
	<ul style="list-style-type: none"> ● パートナー ● 多くの大学の存在 	<ul style="list-style-type: none"> ● 学術専門書へのニーズの増加には、地域大学図書館との連携で対応 	
弱み	<ul style="list-style-type: none"> ● 図書館 ● 専門書の蔵書が少ない 	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域資料へのニーズには、資料収集の重点化を図る情報提供機能を高めるため、ネット環境を充実させる 	
	<ul style="list-style-type: none"> ● パートナー ● NPOの支援がない 	<ul style="list-style-type: none"> ● 交流の場づくりの主体を募る 	

13

水道事業 の事例		ニーズ・役割(外部環境 機会・脅威)	
		増加	減少
		<ul style="list-style-type: none"> ● 水の安全性に対する意識の高まり防災に対する意識の高まり ● 効率的な経営に対する要請 	<ul style="list-style-type: none"> ● 水需要自体の減少
強み	<ul style="list-style-type: none"> ● 技術系職員に高い専門性 ● 水源を含めた一体的な事業運営 	<ul style="list-style-type: none"> ● 安全性を維持するために技術系職員の再雇用を図る ● 水の安全性に対する理解を得るため、水源や浄水場の市民見学を促す ● 防災に対する意識の高まりに対応して、備蓄用の水供給を確保する 	<ul style="list-style-type: none"> ● 水道事業の広域化により、効率的な事業経営を維持する
	<ul style="list-style-type: none"> ● パートナー ● 技術力のある水道関係事業者が多い 	<ul style="list-style-type: none"> ● パートナーとの連携を強め、効率的な経営を維持する 	
弱み	<ul style="list-style-type: none"> ● 浄排水施設の大規模補修が必要である経年管の更新期を迎える 	<ul style="list-style-type: none"> ● 安全性の高い水供給を確保するため、施設の大規模補修、経年管の更新を計画的に進める 	<ul style="list-style-type: none"> ● 水道事業の広域化により、施設の共用・統合を進める
	<ul style="list-style-type: none"> ● パートナー 		

13

高齢者福祉の 事例		ニーズ・役割(外部環境 機会・脅威)	
		増加	減少
		<ul style="list-style-type: none"> ● 心身ともに健康維持へのニーズ拡大 ● バリアフリーへのニーズ拡大 ● 在宅介護ニーズ拡大 ● 高齢者世帯の安全確保 ● 高齢単身世帯の不安解消 ● 高齢者福祉への効率化要請 	<ul style="list-style-type: none"> ● 長寿の意味が変化 ● 施設介護ニーズの減少
強み	<ul style="list-style-type: none"> ● 行政 ● 高齢者交流の場づくりに実績 	<ul style="list-style-type: none"> ● 交流の場づくりを通じて高齢者の健康維持に活用 	<ul style="list-style-type: none"> ● 長寿祝い金制度の廃止
	<ul style="list-style-type: none"> ● パートナー ● 介護予防体制の充実 ● 介護保険事業者が多い 	<ul style="list-style-type: none"> ● 医療・福祉機関と連携し、健康維持のための取り組み強化 ● 在宅介護に介護保険事業者と連携 	
弱み	<ul style="list-style-type: none"> ● 行政 ● 高齢者福祉財源の逼迫 	<ul style="list-style-type: none"> ● 公共施設の補修にあわせたバリアフリー化を推進 	<ul style="list-style-type: none"> ● 施設介護への補助を削減推進
	<ul style="list-style-type: none"> ● パートナー ● 地域コミュニティが弱い 	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域コミュニティを強化することにより、高齢者世帯の安全確保を図る 	

20

4. SWOT分析をやってみよう

1. 外部環境分析(O・T)
 - 地域職域連携事業を取り巻く諸環境の現状を記述
 - ニーズや役割の視点で考える
2. 内部環境分析(S・W)
 - (自組織内)の現状を記述
3. 外部環境と内部環境をプラスおよびマイナス要因で分類
4. SWOT表にまとめる
5. 全体を確認しながら、さらにアイデアがあれば表に直接追記
6. クロスSWOT表に整理
7. 戦略オプションを考える

21

テンプレート

		ニーズ・役割(外部環境 機会・脅威)	
		増加	減少
強み	保健所	●	●
	パートナー	●	●
弱み	保健所	●	●
	パートナー	●	●

22

図4 プロセス評価シート（ハンドブック V.1 に記載あり）

プロセス評価シート

項目		できている	できていない	状況/気づいたこと/メモ
課題の明確化と目標（E-1）	E1-1 地域の働く世代の健康課題が明確にできている	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
	E1-2 取り組む目的が明確になっている	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
	E1-3 中期的な目標を設定している	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
	E1-4 年度の目標を設定している	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
	E1-5 取り組み目標を健康増進計画と関連させている	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
	E1-6 事業ごとの実施目標値（評価項目/評価指標）を設定できている	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
実施上の留意事項（E-2）	E2-1 ワーキングを設置している	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
	E2-2 目標に応じた参加機関は適切である	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
	E2-3 関係機関と健康課題や目的・目標を共通認識できている	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
	E2-4 協議会に参加する意義、メリット、役割を関係機関に説明している	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
	E2-5 協議会の推進に当たって、自地域の強みを把握している	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
	E2-6 協議会の推進に当たって、疎外要因を把握している	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
	E2-7 協議会やワーキングのキーパーソンを把握している	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
評価（E-3）	E3-1 年度ごとの実施状況の評価をしている	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
	E3-2 評価結果を参加機関と共有している	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
	E3-3 中期的な評価はしている	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
	E3-4 関係機関が意義・役割を認識して事業に参加していた。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
	E3-5 対象者や対象事業所反応があった/満足度が高かった	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
事務局体制（E-4）	E4-1 事務局の人員が確保できている	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
	E4-2 実施事業の予算が確保できている	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
	E4-3 開催月の予定を立てている	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
	E4-4 議事録を作成している	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
	E4-5 議事録を共有している	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
全体的な感想など				

図5 プロセス評価指標項目の回答状況とコメント記載事項

E1-1 地域の働く世代の健康課題が明確にできている

	できている	
度数	9	
有効パーセント	100.0	

(意見)

協議会メンバーでは共有できていない
健康情報(データ)に偏りがあると思う
調整等の課題

保健所としては明確にしたが関係者と一緒にすすめるかは疑問が残る



E1-2 取り組む目的が明確になっている

	できている	
度数	9	
有効パーセント	100.0	

(意見)

設置要領に記載

保健所としては明確にしたが関係者と共有できているかは疑問



E1-3 中期的な目標を設定している

	できている	できていない	合計
度数	3	6	9
有効パーセント	33.3	66.7	100.0

(意見)

3~5年サイクルで目標を設定

どのように進めてよいかわからないところがある(実現可能性)

毎年度ほぼ同じ目標になっている

3年計画、長期目標のみ



E1-4 年度ごとの目標を設定している

	できている	できていない	合計
度数	7	2	9
有効パーセント	77.8	22.2	100.0

(意見)

目標の適切性に不安がある

明確にできていない



E1-5 取り組み目標を健康増進計画と関連させている

	できている	できていない	合計
度数	4	4	8
有効パーセント	50.0	50.0	100.0

(意見)

30年度第1回WGで計画の目標も提示している。30年度はこれから設定。



E1-6 事業ごとの実施目標値(評価項目/評価指標)を設定できている

	できている	できていない	合計
度数	2	7	9
有効パーセント	22.2	77.8	100.0

(意見)

項目・指導は設定しているが、適切かはや確認



E2-1 ワーキングを設置している

	できている	できていない	合計
度数	7	2	9
有効パーセント	77.8	22.2	100.0

(意見)

年2回開催予定



E2-2 目標に応じた参加機関は適切である

	できている	できていない	合計
度数	4	4	8
有効パーセント	50.0	50.0	100.0

(意見)

ワーキングメンバーの偏り

ターゲットを絞るべきか管内全域を対象とするべきか



E2-3 関係機関と健康課題や目的・目標を共通認識できている

	できている	できていない	合計
度数	7	1	8
有効パーセント	87.5	12.5	100.0

(意見)

共通認識をもてるよう働きかけている

今一步

出来た関係機関とできていないところあり



E2-4 協議会に参加する意義、メリット、役割を関係機関に説明している

	できている	できていない	合計
度数	4	5	9
有効パーセント	44.4	55.6	100.0

(意見)

説明の場を設けている

できているところ、不明なところがある

今一步

さらなる分かりやすい説明要る

メリットを伝えていない



E2-5 協議会の推進に当たって、自地域の強みを把握している

	できている	できていない	合計
度数	6	2	8
有効パーセント	75.0	25.0	100.0

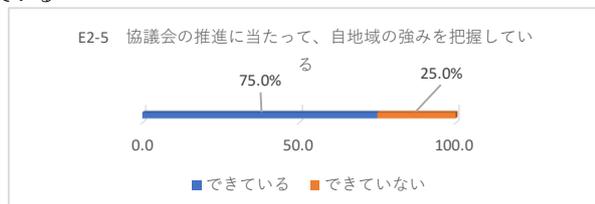
(意見)

管内の仲間意識が強い

地域商業施設の協力がある

ほぼできている

労基署との連携

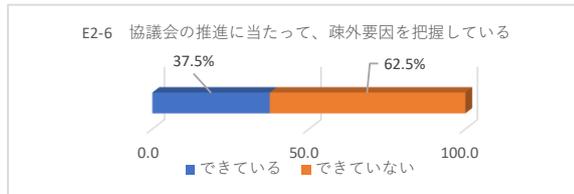


E2-6 協議会の推進に当たって、疎外要因を把握している

	できている	できていない	合計
度数	3	5	8
有効パーセント	37.5	62.5	100.0

(意見)

職域を巻き込む方策必要
ほぼできている



E2-7 協議会やワーキングのキーパーソンを把握している

	できている	できていない	合計
度数	4	5	9
有効パーセント	44.4	55.6	100.0

(意見)

キーパーソンの参加できる日程で調整している
誰をキーパーソンにしたらよいか迷っている
なんとなく把握している

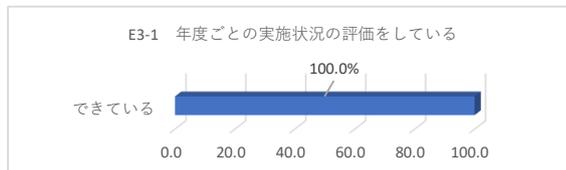


E3-1 年度ごとの実施状況の評価をしている

	できている
度数	9
有効パーセント	100.0

(意見)

評価しているが適切でないと感じている
協議会



E3-2 評価結果を参加機関と共有している

	できている	できていない	合計
度数	3	6	9
有効パーセント	33.3	66.7	100.0

(意見)

協議会で共有



E3-3 中期的な評価はしている

	できている	できていない	合計
度数	3	6	9
有効パーセント	33.3	66.7	100.0

(意見)

毎年計画が一緒だった



E3-4 関係機関が意義・役割を認識して事業に参加していた

	できている	できていない	合計
度数	3	5	8
有効パーセント	37.5	62.5	100.0

(意見)

説明はしているがどこまで理解していただいているか

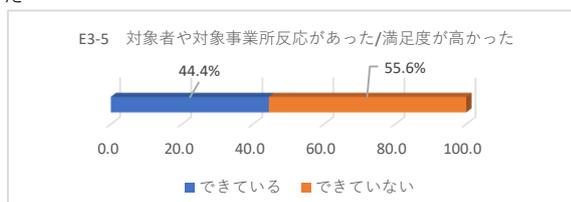


E3-5 対象者や対象事業所反応があった/満足度が高かった

	できている	できていない	合計
度数	4	5	9
有効パーセント	44.4	55.6	100.0

(意見)

職域に活用していただきにくい可能性がある
全員が同じ満足を持ったとも思えない
わからない
出前講座実施後のアンケートでは満足してもらっている
出前講座の反応が良かった(担当者)従業員の意識は高くないが



E4-1 事務局の人員が確保できている

	できている	できていない	合計
度数	1	7	8
有効パーセント	12.5	87.5	100.0

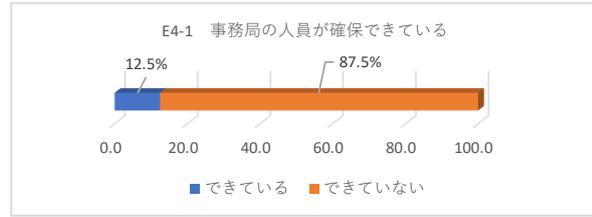
(意見)

事業所のニーズに対応できる保健師数でなかった(初年度)

1人担当

足りていない。1人で実施するしかない

総務企画課PHN1人



E4-2 実施事業の予算が確保できている

	できている	できていない	合計
度数	4	5	9
有効パーセント	44.4	55.6	100.0

(意見)

協議会用のみ予算あり

カラー印刷不可



E4-3 開催月の予定を立てている

	できている
度数	9
有効パーセント	100.0

(意見)

意見記載なし



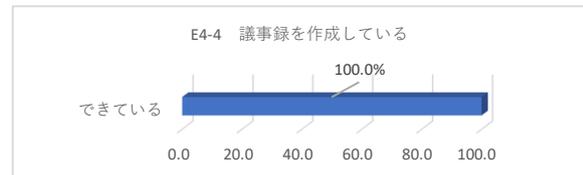
E4-4 議事録を作成している

	できている
度数	9
有効パーセント	100.0

(意見)

50% 今後していこうとは思っているが大変(委員の範囲)

会議録を作成



E4-5 議事録を共有している

	できている	できていない	合計
度数	6	3	9
有効パーセント	66.7	33.3	100.0

(意見)

構成員・ワーキング参加者

保健所内のみ

50% 今後していこうとは思っているが大変(委員の範囲)

保健所のみ共有

グループワークの内容を関係機関に配布したりしなかったり

欠席者に郵送



図6 ブレイン・ライティングを活用した対策の検討で提示した事例

ブレイン・ライティング の方法を参考にした 話し合いの体験

国際医療福祉大学
荒木田美香子

ブレイン・ライティングとは

- ブレイン・ストーミングは賑やかに話しながらアイデアを出し合いますが、その作業を「書く」ことで進めます
- いくつかの方法が提案されていますが、本日はその変法を行います
- また、まとまったアイデアを集約して、優先順位をつけるところまでやりますが、この方法はノミナル・グループ・プロセスという方法の一部を使っています

本日のテーマ

- 事例：地域・職域連携に労働機関側を巻き込んだアプローチを行うためにはどうしたらよいか
- 2市4町の二次医療圏の地域・職域連携推進協議会
- 本圏域の健康課題は**脳卒中・心筋梗塞の死亡が県内でも高い。50歳代以降で高血圧で服薬者数が増加し、服薬者の割合も県平均より高い**
- 老年人口割合は27%で全国（26.6%）とほぼ同じである。
- この地域の国保加入率は23%程度であり、高くない。
- 産業としては海が近いため、魚加工（干物）、観光業の他、内陸の高速道路インター近くには工業団地があり産業も盛んである
- 大手企業もあるが、その下請け企業も多く、20人未満の工場が多い。
- 内陸地には農業も残っており、自営、小規模事業所などが多い。

- 地域・職域連携協議会の活動は、これまでは特定健診の受診率向上を目指して、協会けんぽなどの協力も得て「健康診断を受けよう」のパンフレットを作成し、協議会のメンバーから労働者に配布してもらってきた。
- 毎年、パンフレットを見直し、配布先にも依頼しているが、どれだけ、誰に配布できているか把握していない。
- この地域の国保の特定健診の受診率は23%と低い。この2-3年では目立った改善はみられていない
- 地域・職域連携推進協議会は「**高血圧者が多く、循環器疾患リスクが高い**」という健康課題へのアプローチを考えている。
- 小規模事業所は商工会議所の健康診断を使っているところも多い。
- 地域産業保健センターや商工会議所などの労働関係機関の協力を得て、健康課題にアプローチしたいと思っているが、協議会事務局担当者は、労働関係機関の担当者の熱意が今一つ感じられないと思っている。
- **労働関係機関に積極的に参加してもらい、中高年の労働者に高血圧が多いという健康課題への対策をしたいが、労働関係機関をやる気にさせるためにはどのような方法があるか**

本日の進め方

1. 6人ぐらいのメンバーで進めましょう
2. まず、ポストイットに2つのアイデア・対策を書いて、用紙の1の欄に貼ってください
3. それを右隣の人に渡してください
4. 回ってきたシートに書かれたアイデア・対策以外のアイデアを2枚の附箋に書いて、用紙の2の欄に貼ってください
5. 上の手順を数回繰り返します
(本日は4行目までを行います)
6. 4回りしたところで、各自の附箋を集めて、どのような対策になるか、分類・まとめをしてください
7. 分類された対策のうち、自分で3つの有力候補を選んでください。有力なものに3点、2点、1点をつけます
8. これらの得点を足して、最も有力な対策、その次に有力な対策〜と決めていってください

表 2-1～表 2-4 ブレイン・ライティングでのグループワークで出された意見のまとめ

表 2-1 A グループの意見

大項目	小項目
知識の普及啓発	働く世代の脳卒中、心筋梗塞予防の重要性を記したパンフレット、リーフレットの作成
	高血圧持続で脳梗塞を起こした事例を提示し勉強会(複数の職場で)
きっかけ作り	検診(健診) データを提出してもらったらインセンティブを出す
	事業所に血圧計を置いてもらう予算を補助する
	予防活動(高血圧) について、出来ることはないか話し合う場を設定する
高血圧の保健指導	高血圧が具体的にいつ頃どんな体への影響を及ぼすのかを説明するパンフレット配布
	高血圧関連疾患の死亡数を具体的に地域のデータで示す
	社内の喫煙率を調査する
	高血圧は他疾患に悪影響を及ぼすことを説明
	高血圧持続がなぜ体に行けないのかを理解する講演、また年齢とともに上昇することも
	高血圧の人とそうでない人との健康上の差異を提示する
ハイリスク度の見える化	高血圧になると就労にどのような影響があるかを提示する
	労働機関に高血圧の労働者が多い未来を予想してもらう
	エース社員が事業主に現在の生活状況を説明する
	作業者の原因疾患を示して、そこに高血圧がどのくらい関与しているか説明する
	高血圧の治療・予防によって健康寿命が延びることを説明する
高血圧データを示す	未治療者への集中的アプローチ
	企業別の高血圧者割合を示す
	他の二次医療圏と高血圧者を比較して提示する
	平均給与別の高血圧者割合を示す、生活習慣の差を示す(運動食事)
経済損失	分析できたデータをグラフなどにして資料を渡す
	高血圧で治療している人の保険組合からの負担金を明らかにし、予防による経済効果を示す
	高血圧に関する医療費を調査し結果を示す
事業所の取り組み事例の紹介	働く世代の脳卒中・心筋梗塞死亡が地域で多いこと、ひとりの死亡
	協力してもらいたい労働関係機関内でどれくらい高血圧の人がいるのか確認してもらう
	高血圧予防の取り組みについての勉強会の開催
	他地域での取り組みを事例として消化もする
	他地域の健康経営での高血圧対策の取り組み事例を情報提供する
	協力的な事業所とそうでない事業所の洗い出しと協力的な事業所の理由を調べる
減塩対策	高血圧に対して予防活動に積極的な事業所の取り組みを紹介する
	例えば減塩対策ってこれをすればいい！簡単ですよ！みたいな説明
関係機関への協力依頼	ある事業所の食堂での塩分摂取量を示す(身近に感じてもらえるように) 1日の摂取量の何%を1食が占めているか
	健康経営の推進
	とりあえずいったん労働関係機関のニーズを聞き、行政が支援する(ギブアンドテイク狙い)
	商工団体等のトップへ協力を依頼する
	商工会議所の検診は保健指導がないので、保健指導を私がするようつなげてもらう
その他	産業保健総合支援センター
	自分事としてとらえてもらえるように、労働関係機関の担当者の実体験に重なるように説明する工夫
	事業主の方にエース社員の健康状態を確認してもらう
	事業主と労働者の方に人生で一番大切な人を思い浮かべてもらい、そのために何が出来るか考えてもらう

表 2-2 B グループの意見

大項目	小項目
商工会の理解促進	商工会会員の高血圧の中高年の労働者の人に集まってもらう。その様子を商工会の人に見てもらおう
事業主の理解	自社の高血圧の従業員の方の働き方を確認していただく(事業主の方に) 事業主の方に従業員の高血圧の割合を確認してもらう
上からのアプローチ	労働行政機関に労働者の健康づくりについて取り組むよう国が通知を出す 医師会からの働きかけ 地域の中の有力な(と思われる)産業医とともに、関係機関へ説明(協力依頼)を行う 業種団体の長に協力依頼を行い、〇〇はOKでしたよ、と言いながら回る。 常に職場の身近なところに血圧計を置き、作業後やストレス後の血圧高値を実際に知る。 協力してほしい機関の偉い人に1週間血圧を測定してもらう
子どもからのアプローチ	子どもからアプローチできないか 地元(おそらく労働関係機関の人や企業の人がいる)の子供に、高血圧はこんなに良くないという教育をする(子→親への波及)
他の課や団体からのアプローチ	健康づくり、介護予防部署のPHNと課題共有し、各々の立場で何ができるか出し合う 乳幼児健診の時に母親の血圧を測定する PTAや農協の婦人会へアプローチ(食事を作るのは女性だから女性にその情報を伝える)
現状を説明	「高血圧→脳卒中・心筋梗塞→死亡」のイメージがないと思うので、それが見えるようなわかりやすい情報を示す。内容がふさわしいのはTV番組か 事業形態別(役職別)の高血圧の患者割合の違いを示す 高血圧対策をするとメタボなど、他の健康課題も改善することを説明する 商工会の人に中高年の労働屋に高血圧が多い事実を認識してもらう。データを見せる。 労働関係機関の集約している代表者に合って状況を伝える 高血圧によって引き起こされる疾患を具体的に説明する
良い取り組みのPR	労働者の高血圧が改善される売位の経営上のメリットを提示する 他地域の取り組み好事例を紹介する 中高年の基高血圧者で血圧が下がった人の前後の変化の事例を出す(体重、体調) 血圧対策を取っている事業主に講演してもらう モデル事業所を作り成果を発表してもらう 上からのアプローチ、会社の不利益、よい取り組み
インセンティブ	血圧を正常値に戻せた人にご褒美(表彰)をあげる、禁煙、食習慣改善、ダイエットなどで
会社の不利益	高血圧が原因の労災事例を説明する 高血圧の発症までにかかる期間と発症した際の生活・労働への具体的な影響を説明する なぜ高血圧になるのか、そのままだとどうい展開(重症化)するか伝える。個人の不利益と事業所の不利益の両方 服薬者の定年までの治療費(保険者負担分)、診療に費やす時間などを示す。お金と時間の消費を明示 商工会に高血圧がどのような疾病につながり、経営者、労働者にどんな不利益となるのかを具体例を持って説明する
啓発する	長生きの秘訣、旅行など、退職後楽しい生活を送るために血圧をあげないことが必要と普及啓発 商工会議所ニュースに載せる 労働関係者が開催するセミナーなどで時間をもらい参加者へ取組をアピールする 産業振興部署と連携し、啓発活動を行う
その他	食品会社へアプローチ。減塩でおいしい食事が作れるメニューや調味料など考えてくれそうなところ(企業にもメリット) 高血圧の治療に係る費用を具体的に示す。

表 2-3 C グループの意見

大項目	小項目
トップダウン	県から血压対策を実施する通達を出してもらう
	労働機関にも通達を発出
	商工会議所会頭の会社をターゲットに健康づくりに取り組んでもらい広報する
きっかけ作り根回し	根回しを行う、協議会の議事進行の説明など
	労働関係機関に直接足を運んで顔見知りになる
	労働関係機関に出向く(事業説明する)
	労働関係機関の考えをまずは把握する
	地域産保より感じている事業所の問題を聞く
	実際支援にかかわっている市のPHNと一緒に説明(医療費等)
取組必要性とエビデンス	兼子課題をデータで示す(データの見える化)
	地域産保に高齢者が多く循環器疾患リスクが高いことを説明する(データの理解)
	年代ごとに血压がどのように変化するのかデータで示す
	乳幼児健診で血压を測定する
	会合(役員会)の際に毎回血压を測定する
	事業所に血压計を設置する必要経費を補助する
	血压を測定して健診結果を身近なものにする良い期間になると思う
	自宅に血压計がない人もいるので事業所があると日頃から血压測定をするようになる
共同作業を行う	婦人部と共催できる事業を企画する
	事業主の集まる機会など提供してもらう
	労働基準協会と共催で事業を企画する
	労働基準監督署が行う会合の隙間時間にミニ講演会を入れ、高血圧予防の大切さを訴える
	商工会議所の集まりに時間を頂き健康講座を実施
	商工会議所が行う健診の件か説明時に保健指導を引き受け、もちつもたれつとの関係を作り、巻き込む
	保健指導、出前講座を希望する事業所を商工会議所に紹介していただく
	商工会議所の検診の場呼んでもらう。
まきこみの工夫	商工会議所で受け入れが良い婦人部と仲良しになり、信頼関係を樹立する。
	商工会の婦人部から青年部へ介入を進め、若いころからの健康管理の必要性を理解してもらう
共に検討	健康課題の原因を一緒に検討する
	テーマを与え議論に参加させる
チラシ配布・役割分担	出前講座や健康情報のチラシを配布してもらう
	健康課題に関連したチラシの配布を依頼する
共有	地産保に健診受診率を示し問題点や方策を話し合う
	地域産保と循環器疾患について研修会(事業主)を企画相談する
	地産保に高血圧を減らすには健診の受診率を上げることが必要だと説明する
取り組む利益を示す	参加することのメリットの説明
	取り組むメリットを示す
	高血圧予防を積極的に行っている事業場の好事例を示す
	他地域や他府県で取り組んでいる好事例の説明・紹介
	血压対策で利益のあった好事例を紹介する
経済損失利益への説明	役員会で高血圧の経済損失を訴える、研修会をする
	労働機関の担当者には経済損失と言う概念はないので新鮮である
	事業経営にとっての利益について説明
	高血圧を放置し、重症化すると仕事が出来なくなり不利益につながると事例を示し説明する

表 2-4 D グループの意見

大項目	小項目
法律による根拠を示す	労衛法を貝瀬氏法の趣旨そのものから見直す（健康管理→健康保持）
	「法令」や「規約」という言葉に弱い。そういう言葉を前面に出して依頼する
データを用いて健康課題を可視化する	地域の健康データと労基署の健康データを比べる
	データ分析提示、リスク・必要性を開花し突きつけることが肝要
	国保のデータをもとに現在の地域健康課題を労働関係機関が分析する
簡単にできる方法・ノウハウを提供	簡単にできそうな方法具体的に提案する
	役割等を明確にし、「やれるイメージ」を植え付ける
	発信源となる特定検診受診率向上のため「がん検診」等、「受けたい」と思えるオプションに投資する
	食事、運動等すぐできそうなところから始める（これくらいならやってもいいかもと思わせる）
	手間や時間がかからない方法を提案する。（昼休みを使った出前講座など）
イベントの実施	生活習慣病から発生する（関係する）具体的な症状・仕事上に関係することを体験するイベントを実施する
	野菜摂取、減塩対策に取り組んでいる事業所飲食店を活用したイベント提案（補助金）
	健康ポイントイベントの提案
	県健康づくりの知事表彰を推薦したいと申し出る
	街づくりとしての取り組み、他課連携、商工会イベントの協力
	運動の効果を知らせる、伝えるとともにイベント等一緒に協力
	興味を持ってもらうために、インセンティブをつくる（ポイント、表彰など）
	産保センターを通じて依頼する
商工会議所・商工会への働きかけ	圏域の健康課題を協議会で説明し、共有する
	商工会議所の担当者に自身の健康課題を分析する
当事者意識向上	労働関係機関の抱える健康問題を聞く
	高血圧が多いという現状を伝えた上で、心当たりがないか聞いてみる（高血圧を健診で指摘され気になっている事業主多いはず）
	商工会の婦人部を巻き込んで、従業員の健康状態を知っていただく
	高血圧の症状・危険性について従業員と事業主が一緒に話し合う
	健康課題のない未来を想像する
経営者への働きかけ	トップダウンへの仕掛け（中小は微妙）
	働き方改革と健康経営を絡めてPR
	現在の経営状況・課題について事業主の人から保健事業担当者に説明してもらう
	当該機関の長に直接依頼する
	健康経営にて企業への利益を示す（生産性↑利益↑）
不可能ではないことを示す	商工会で健康経営をしている事例、機関名を出す（できれば近隣の）
	事例を分かりやすくまとめたリーフレット、ホームページの作成（アクセスしやすい媒体で提供）
	事業所の健康課題分析結果に基づく資材の提供（地域、保健所でこんな事業やっています）
	好事例の発信
	県外の好事例の紹介
	患者の体験談を生で聞かせる機会を作る
	商工会議所の方に健康に熱心に取り組んでいる事例を紹介する
	高血圧予防レシピ集を作成して、商工会婦人部に口座を開く
	県単位での健康経営セミナー等イベントを商工会議所が主となり実施
	労基署の3管理の1つ健康管理と絡め、生活習慣予防について理解を求める
経営者（メリット）	講演会を企画して当該機関の関係者に聴きに来てもらう
	メディアの報道を引き合いに出して依頼する
経営者（プレッシャー）	「こんな状態が続くと機関としてお困りになるでしょう」とプレッシャーをかける
	「以前居た市の機関はすぐに引き受けてくださったんですけど…」と田と比較する
	労働関係者のトップへのセミナー（トップへの働きかけ）
	データ分析の結果を生産性低下、コスト増に変換し提示
	健康増進法改正の働きを伝え、今動かねばならない状況、最新の情報を分かりやすく提供する

図7 初期集合研修参加後の意見

回答は「まったく参考とならなかった」「あまり参考とならなかった」「どちらともいえない」「ある程度参考になった」「とても参考になった」の5段階で聞いた。
回答者は8自治体の9人であった（1自治体から2名参加のところがあった）

Q1.他の協議会の活動などは参考になりましたか

	ある程度参考になった	とても参考になった	合計
回答数	2	7	9
%	22.2	77.8	100.0



Q2.自組織のプロセスチェックは参考になりましたか

	ある程度参考になった	とても参考になった	合計
回答数	4	4	8
%	50.0	50.0	100.0



Q3.SWOTは理解できましたか

	ある程度理解できた	とても理解できた	合計
回答数	5	4	9
%	55.6	44.4	100.0



Q4.SWOT分析は参考になりましたか

	どちらともいえない	ある程度参考になった	とても参考になった	合計
回答数	1	4	4	9
%	11.1	44.4	44.4	100.0



Q5.ツールに興味を持ってましたか

	とても興味を持てた
回答数	9
%	100.0



Q6.ツールの使い方は理解できましたか

	ある程度理解できた	とても理解できた	合計
回答数	3	6	9
%	33.3	66.7	100.0



Q7.ブレインライティングは参考になりましたか

	ある程度参考になった	とても参考になった	合計
回答数	2	7	9
%	22.2	77.8	100.0



表3 初期集合研修の回答（自由記載）

Q8. ツールに関する意見（自由記載）

- ・ 所内で全体をゆっくり確認してみます。ツール使った後にSWOTを再度行ってみるときとちがう点が出てくると思いました。
- ・ 実際に使ってみます。評価指標は広めに書かれていて使いやすそう、と思いました。
- ・ 担当が判断するのに役立つ。実際に使ってみたら更に具体的に助言のほしい点が出るかもしれないと思いました。
- ・ 圏域や市町のデータを入力して、活用してみたい。
- ・ 様々な視点があることがわかりました。活用が楽しみです。
- ・ 評価に悩んでおり、非常にヒントを得た。
- ・ 実際に活用できるか不安です。

Q9. その他ご意見や感想（自由記載）

- ・ 1つ1つがとてもいいものなので、もう少し落とし込めるところまでできますと嬉しいです。
- ・ ツールを使うことで、地域・職域の協議会の参加機関のメリットが見えてくると思いました。
- ・ 来年度、こうしたいと考えていた案が、ツールに入っており、自身の考え方に妥当性を見いだせた。ありがとうございました。
- ・ それを通して、当所(当課)のwinに協力を頂くばかりでなく、参加機関のwinにつなげられることを整理し伝えたいと思いました。
- ・ 事務局内で検討する際にSWOT分析を参考にしたいです。
- ・ 他府県の取り組み等いろいろ知ることが出来ました。また、今後の事業の参考になることがたくさんあり、とても良かったです。
- ・ 課題の多い地域なのでどう整理していくか、何から取り組むか本日の内容を参考に検討します。
- ・ 実践に結びつけられるとよいと思いました。

表4 初期集合研修のよかった点 (回答者6名)

ポイント	記述内容
<p>参加した協議会事務局担当者間で情報共有ができた</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・集合して顔を合わせるにより、直接質問でき迅速に互いの疑問を確認することができた。 ・担当者間の情報共有の場となった。 ・事務局経験担当者が一堂に会することで、他参加協議会事務局相互の活動が参考になると思われる。 ・参加自治体がそれぞれの発表を聴講することにより、相互学習を行うこととなり、課題を確認することができた。 ・協議会の中でもトップランナーと思われる層と研究班との意識・課題共有が図れた。 ・モデル事業担当者間で各地の状況や課題を確認することができた。 ・各協議会の活動状況の発表のための準備をしてもらうことで、自協議会活動を振り返り、その強みや課題を考えることができていた。
<p>ワークが自組織の多角的な分で見につなげた</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・SWOT分析やブレイン・ライティングなどワークを通し、担当する地域の課題や事業内容を見直したり、評価したりする機会となった。 ・多角的に各自治体の事業を考察することにより、研究班としての今後の支援のポイントが明らかにできた。 ・ブレイン・ライティングやSWOTは使いやすく、効果的な話し合いの方法であり、理解しやすいので普及できると良い。
<p>モチベーションの向上につなげた</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各協力者の地域、職域連携推進事業に対する熱意を共有することができ、モチベーションの向上につなげた。 ・ピア・サポートの関係でよりモチベーションがあがった。 ・厚労科研を通じ、国が地域・連携促進に向け前向きであるという姿勢が伝わった。
<p>地域・職域連携事業を考える時間を確保できた</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・10時から16時までで時間が限られており、集中して研修を受けることができた。 ・地域・職域連携推進事業だけを考える、邪魔の入らない貴重な時間を得ることができた ・参加者の意識が高く、満足度も高かった。

表5 初期集合研修の改善点 (回答者6名)

ポイント	記述内容
モデル事業参加者の選択方法についての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・今回の参加者は手上げ方式で選んだが、その結果、意識の高い参加者が多くなった。担当者の事業実施レベル底上げとしてモデルとなるかは疑問である。底上げを狙うのであれば、参加募集の方法として、別のやり方も考える必要がある。 ・協議会の活動が多様であるので、研究に参加していただける保健所数もう少し増加できる介入方法の検討をしたほうが良い。
研修内容が多く、ディスカッションの時間が不足した	<ul style="list-style-type: none"> ・盛りだくさんの研修内容だったため、1つ1つの時間が短くなってしまった。 ・参加者の疑問や質問に答えるための時間を十分にとることができなかった ・最初の課題発表について、発表時間が長く、ワークの時間が短縮されていた。発表の進め方、研修時間をもう少し長く設定するなど、時間の確保が必要ではないか。 ・相互学習という観点から、参加者間のディスカッションの時間を多くとるとさらに効果的であったと考えられる。 ・それぞれの単元での考察は有意義だと拝察されますが、多角的だったゆえ、最終的に総括されて各自治体へ提言がまとめきれなかった。 ・ブレイン・ライティングやSWOTを協議会で活用して効果的に推進しようとするならば、研修は2回くらいの開催が必要だと思われる。
研究としての評価方法の検討が必要	<ul style="list-style-type: none"> ・今回の参加者は地域・職域連携推進事業を積極的に進めている協議会担当者であるので、今後介入研究を実施したとしても有意な、あるいは明らかな効果を明確に出来る可能性が低いと思われる。したがって、一般の協議会と比較するのではなく、同一協議会での変化を客観的に評価できる指標を考えることが重要である。
取組が進んでいる自治体へ支援について	<ul style="list-style-type: none"> ・先進的に事業展開している自治体におけるツールの有意義な活用法について検討が必要と考えます。 ・今後の課題としては、トップランナーでない協議会を如何に取り込んでいくかと認識している。
研究者が担当する自治体への準備	<ul style="list-style-type: none"> ・初期集合研修の段階で推進事業の計画や実施が既に進んでいる協議会があるため、担当は早い段階でつけたほうが良い。 ・支援する研究者チームとして、各自治体の課題を踏まえた事前の支援方針を確認しておくべきではなかったかと考える。
都道府県単位の研修について	<ul style="list-style-type: none"> ・都道府県単位などでこのような研修が実施できるとよい